

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	椋山女学園大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	スギヤマジョウカクエンダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	愛知県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ2
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	後藤宗理(キャリア育成センター長)江崎秀男・堀田圭一郎(キャリア育成副センター長)加藤珠穂(キャリア支援課長)キャリア支援課2名教務課1名
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	13	
受入企業等数	164	
受入企業等名	http://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/career/internship/	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	グランドスタッフとしての知識を3日間の座学で8割習得し、空港内でのグランドスタッフ補佐業務(旅客カウンター内手荷物受託、返却業務・配慮旅客への案内業務等)
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次以上
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	履修生が企業や自治体等で実際に就業を体験する科目であり、事前指導にてインターンシップにあたっての考え方やマナーを学んだのちに、就業体験を行う。その後、事後指導にて成果をまとめ発表しあうことによって、履修生各自の就業観を確立し大学における学修目的を明確化させる。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	メイクアップ講座やインターンシップ体験者のパネルディスカッションを実施。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	受入先企業の方や、経営者の方に講演をしてもらい、社会が求める人材像について考える場とし、今後何に取り組むべきかを考える。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に定期的に教職員が実施先に赴き、実施中の状況を見学、学生との面談や実施先との意見交換を行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	本学教員及び外部講師等、複数名が指導担当となり全3回シリーズで行っている。内容としては、インターンシップの心構えや女性と仕事について、コミュニケーション及び自己分析に関する講義(第1回)、ビジネスマナー・メイクアップ講座(第2回)、問題発見・解決スキル、インターンシップの目標設定、グループワーク及びプレゼンテーション(第3回)等で実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後、学生は日報と報告書を大学に提出する。その後事後指導でインターンシップの振り返りを行い、学修成果の確認や今後の目標、キャリアデザインなどについて講義やグループワークを通して学ぶ。まとめとして、例年11月にインターンシップ報告会を実施し企業担当者を招いて代表学生による就業体験のプレゼンテーションを行っている。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ参加学生が所属する学部の担当教員が受入先企業等への巡回指導を実施し、そこで実際に就業体験の様子を見学し、受入先からの話や、学生からのヒアリングを行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前指導後にアンケートを実施することで目的意識の変化や講義内容についての理解度を確認するほか、学生自身でインターンシップに対しての目標設定を行い、事後指導で学生間での報告を通して達成状況を確認するとともに気づきの定着を図る。また受入先より学生の就業状況を評価票にて報告してもらうことで客観的評価とし、履修生各自の就業観を確立し、大学における学修目的を明確化させ、就業力育成につなげる指導を行っている。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5~20日程度(各企業等による)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入先企業によって実習期間は異なるが、5~20日間のインターンシップを行っている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にととの意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前にインターンシップの意義や目的など実施要綱を受入先となる企業等にご理解いただいた上で、受入先にてプログラムを作成し、内容を提示していただき確認したものを学生へ紹介する。また、受入先企業等を本学教職員が訪問や面談したりするなどして受入先の考えや負担などに考慮するよう努めている。	

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	相山女学園大学
	担当部署名	学務部 キャリア支援課
	担当者役職名	キャリア支援課長
	担当者氏名	加藤珠穂
	電話番号	052-781-1873
	メールアドレス	internship@ml.sugiyama-u.ac.jp